物語を活用するプロジェクトマネジメント教育

プロジェクトマネジメントコース　矢吹研究室　1142064　鈴木淳子

1. 研究の背景

　プロジェクトマネジメントに関する知識及び活動には，多くの経験から蓄積された実務的な経験が必要となる．そのため，多くの企業でプロジェクトマネジメントの知識を習得するための研修が行われている．

本研究では，PMの知識を習得するために行われている「【PM桃太郎！】～プロジェクトマネジメントを学ぼう～」[1] （以後，PM桃太郎）というセミナーに着目する．

このセミナーは，特定非営利活動法人 Layer Boxが主催しており，小学校高学年から中学生を対象とし，2日間かけて行われるプログラムである．そのプログラムでは対象者が理解しやすいように，昔話の「桃太郎」を用いている．

プログラムの成果物は，グループごとに作成された絵本であり，その内容は，「桃太郎」をプロジェクトマネジメントの視点から解釈し，考察したものである．

1. 研究の目的

本研究の目的は，物語を活用してプロジェクトマネジメントの知識を学ぶことのできるプログラムを考案することである．

　本研究では，上記のプログラムを考案し，プロジェクトマネジメントを学ぶ大学生を対象に考案したプログラムを実施し，結果を検証する．

1. 研究の方法

本研究のプログラムは，千葉工業大学社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科に所属する1年生が参加する，東京ディズニーシーでのオリエンテーションで実施する．

対象者は，千葉工業大学社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科1年生の矢吹グループ（以後，矢吹グループ）に所属する10名であり，私が考案したプログラムを実施し，その結果を分析し，考察する．

プログラムの実施内容を以下に記載する．

(1)期間

　4月21日～7月5日（東京ディズニーシーのオリエンテーションの期間）

(2)内容

はじめに，私が「PM桃太郎[1]」について調査を行い，プログラムを考える．

次に，対象者が東京ディズニーシーに関する物語を調査し，調査した物語に沿ってPMの一連の活動を擬似する．私はこの活動に沿って，考案したプログラムを実施する．

(3)検証方法

プログラムの終了後，アンケート調査を行う．その後，学生の成績（一般的な科目の成績とPMに関する授業の成績）を収集し，分析をする．

本研究の目的を果たすには，学生のプロジェクトマネジメントについての学力の上昇を比較し，検証する必要がある．プロジェクトマネジメントについての学力を検証するには，プロジェクトマネジメントについての学力とは別に，一般的な教養の学力を割り引くことが必要である．そのために，本研究の検証には，一般的な科目の成績とプロジェクトマネジメントに関する授業の成績を用いる．また，本研究で考案したプログラムは学生を対象とするため，学生が本プログラムで学びたいと思うようなプログラムを考案しなければならない．そのため，本プログラムが学生の興味を引くことができたかどうかを検証する必要がある．その成果を検証するために，アンケート調査を行う．

1. 研究結果

　分析結果から，私の考案したプログラムを実施した学生と実施していない学生とでは大して差が出なかったと示された．しかし，本研究のプログラムにおける学生の満足度を得ることができた．

分析結果をふまえ，修正を行い，プログラムを完成させた．

5．考察

私の考案したプログラムはまだまだ未熟なものであり，効果をきちんと証明できてはいないが，多くの学生が物語を活用してプロジェクトマネジメントを学ぶことに興味を示した．そのため，本研究のテーマである「物語を活用して学ぶ」という点に着目していただき，本研究を，プロジェクトマネジメント学習する一つの方法として参照してもらいたいと考える．

参考文献

[1] 特定非営利活動法人 Layer Box. 【ＰＭ桃太郎！】～プロジェクトマネジメントを学ぼう～. (2013-10-21).

<http://www.aoniyoshi.us/layerbox/110326-pmmomotaro.htm>